

【平成23年度 授業改善推進プラン】

板橋区立板橋第六小学校

【国語】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書き、言葉の使い方等は概ね理解できているが、より確実な理解に結び付けるよう習熟を深める必要がある。 情景や心情を意識した音読に課題がある児童がいる。 「話すこと」に苦手意識を感じており、十分に自分の思いを伝えることが苦手な児童がいる。 メモを基に作文を構成する方法の理解が不十分な児童がいる。 <p>(3、4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理的思考に不十分な点が見られる。 漢字が書ける児童と、書くことが苦手な児童との差が大きい。 文章表現能力が十分な児童が見られる。 文章に即して読み取る力がやや不足しており、文章の内容や要点を順序立てて正しく読み取ることが苦手な面がある。 語彙そのものの不足、語彙の定着に課題のある児童がいる。 <p>(1、2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 動作化や音読にすすんで取り組み、発表しようという意欲がある。 漢字を覚えることが苦手な児童がいる。(2年) ひらがなの読み書きは十分できている。(2年)
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りについては繰り返し行っている。今後は書き取りだけでなく、漢字の読み取りや書き順の指導にさらに力を入れていく必要がある。 中、高学年においては国語辞典の有効な活用を図り、正しい言葉の習得や活用に役立てていく必要がある。 話し合いの仕方については日常より指導を繰り返しているが、発表の仕方や発言の仕方について意図的・計画的に取り上げて指導を進める必要がある。 要点を簡潔に整理してメモすることやメモを活用して作文を構成していくよさなどを十分に理解させ、習慣化する指導を工夫する必要がある。 文章内容の読み取りや要旨及び要点の読み取りについて指導方法を工夫し、確実に読み取る力を育てる必要がある。 学年の発達段階に応じて、「話すこと」に慣れる日常的な指導の工夫が必要である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字タイムや授業での漢字の練習、補習などを通して、漢字の習熟に努める。 主語、述語等の簡単な関係から文章理解を始め、指示語、接続語に注目して長文の理解を進める授業展開を心がける。また、要旨の理解については読み取り方法を丁寧に取り扱い、繰り返し、要旨理解ができるよう指導を充実する。 学習意欲を大切にし、どの学年でも大きな声ではっきりと話せるよう指導を繰り返し行うとともに、基本的な話し方(話形)の指導を学年の発達段階に応じて行う。 作文指導の際には、「書きたいこと」を明確にさせる。また、その「書きたいこと」を中心にしたメモが構成できるよう、より一層、メモを活用した作文指導を行う。 友達の発表や意見を聞く機会を十分に設定し、必ず感想をもてるように指導する。また、スピーチ・インタビューの形式を意図的に取り入れ、話すこと・聞くことの日常化を図るとともに、要点を簡潔に整理してメモする学習を繰り返し行う。 読む力を伸ばすために、読書タイム(週1回15分間)を活用し、読書活動をより一層進めていく。 評価計画を基に、個に応じた具体的な支援の充実を図る。

【社会】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図の基本的な読み取りは概ね理解できている。 ・課題解決に向けて意欲的に学習に取り組むが、興味・関心の個人差が大きい。 ・資料を読み取ることはできるが、その内容を学習のまとめに生かすことが苦手な児童がいる。 <p>(3、4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的な学習に興味関心をもつ児童ともたない児童の差が大きい。 ・体験的な学習には、どの児童も興味を示す。 ・地図の学習で、方位や地名、地図記号を覚える児童の個人差が大きい。 ・学区域や区内の学習を進んで行う。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を十分に活用し、学年の学習内容に応じて、地名や都道府県名及びその位置関係を正しく理解させていく必要がある。 ・グラフや統計資料の基本的な読み取り方について、指導を一層重視したり、活用したりする場面を設定していく必要がある。 ・単独資料の読み取りに加え、複数資料を活用し、分かることを明確にしていく学習過程が必要である。 ・学年の学習内容に応じた土地利用の特徴や産業の様子についての知識の定着を、さらに図る必要がある。 ・調べたことをまとめる際には、資料から読み取った事実を基に、社会的な事象の意味や特色などを自分なりに考え、表現していくように指導していく必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と関連させ、地図を十分に活用し、都道府県の所在地や日本の工業生産、農業生産と地理的条件についての知識・理解を定着させていく授業を展開する。 ・資料活用を十分に図る必要のある課題設定を行い、1単位時間の授業を展開する。また、問題解決に必要な資料活用の方法を指導してから調べ学習に入るなどの展開の工夫を行う。 ・「分かったこと」、「分からなかったこと」を毎時間のノートに記述させるとともに、掲示物を利用し新しい知識を常に意識できるような工夫を行う。またノート指導の充実を図る。 ・資料を自分で作る、フリップを自分で書くなど発表を工夫する場面を設定し、資料の活用能力や思考力、判断力の向上を図る。 ・現行社会科学習についての意識調査を基に、児童の実態に応じた単元開発及び指導の工夫を行う。 ・白地図を活用し都道府県・市区町村の形や隣接する地域はどこなのかを理解させ、それらの地理関係を言葉を使って説明できるようにする。 ・どの学年においても地球儀や地図を有効活用した授業の工夫を行い、地図を活用する基礎的な力を育成する。 ・評価計画を基に、個に応じた具体的な支援の充実を図る。

【算数】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題場面の読み取りが不十分なため、演算決定が曖昧になる傾向が見られる。 ・文章題や、問題の構造が複雑になると、問題の意味が十分に理解できず、平易な式で答えを求められる問題でも、正解にたどりつけない児童が見られる。 ・解決方法において考え方が多様に広げることが苦手な児童が見られる。 <p>(3、4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能は定着しているが、数学的な考えに不十分な児童が見られる。 ・学習したことの定着度はよいが、応用的な問題になると、「分からない。」と言って考えようとしなない児童が見られる。 <p>(1、2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋道立てて考える力や文章題の演算決定が苦手な児童が見られる。 ・数の分解や合成を苦手とする児童が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひき続き基本的な計算技能の向上に取り組む必要がある。 ・思考力・判断力・表現力の向上が課題であり、自力解決を図るための支援を充実させていく必要がある。 ・解決の見通しを十分にもたせたり、既習事項を生かせるようにしたりする指導をより一層重視していく必要がある。 ・数量関係や数の仕組みについては発達段階に応じて具体的に図や表を活用して全体像をとらえさせる必要がある。 ・図形を調べたり、確かめたり、作図をしたりする算数的活動の充実を図る必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p> <p>* 練り上げの段階での発表の改善策を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめに、本時で学習する内容に関連する既習の計算問題を短時間で練習し、学習の充実を図る。 ・児童の実態に応じて具体物の活用を図り、絵や図などを立式や考え方の説明と結び付けられるよう繰り返し指導を行う。 ・学習課題に応じて、既習事項を振り返る時間（意識できる時間）を毎時間設定し、学習問題の確実な解決を図るとともに、多様な考え方ができるような授業を展開する。 ・数直線図の指導を徹底して行い、数の見方や数量関係の理解力向上を図る。 ・計算の性質を活用し、簡単に処理できるよさを実感させる指導を充実させる。 ・自分で調べたり、確かめたりすることを授業の中に計画的に位置付けていく。 ・少人数やグループ、全体で自分の考えを分かりやすく発表できるように指導する。 ・計算タイム（週1回15分）の指導時間における指導内容を工夫し、個に応じた計算力の向上を図る。

【理科】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組むものの、知識の定着を図ることに課題がある児童がいる。 ・日常的に自然を深く観察している児童が少ない。 ・観察結果をグラフや表に正確に表現する技能の定着が不十分な児童がいる。 ・複数の資料を関連付けて変化の予想を行ったり、現象の要因を考えたりすることが苦手である。 <p>(3、4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心の高い児童が多い。 ・知識・理解の定着や観察を通して思考する力が不十分な児童がいる。 ・実験観察後の学習のまとめを書く際の内容が不十分な児童がいる。 ・昆虫に対する興味・関心が高い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験を行う際には正しい用具の使い方等の基本的な事項を繰り返し指導し、学習活動を通して定着させる必要がある。 ・実験や観察の結果から導き出した知識について十分に理解させ、定着していく指導を充実させる必要がある。 ・データの読み取りを丁寧に行い、結果を推察する力を養うためにも、グラフや表の取り扱いについては、算数の指導との関連を図る必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察のデータから結果を考察する方法を丁寧に指導し、児童の考えを深める思考を促す。 ・考察したことを伝え合う活動を行う。 ・基本的な実験観察の技能、知識についての指導を十分に行う。 ・算数学習との関連を十分に図るとともに、理科学習におけるグラフや表の取り扱いを重視し、実験結果を科学的に見取ることができる授業を展開する。 ・自然事象から規則性を見出す学習を重視して指導する。 ・気象の学習では、地図の適切な利用や方位の学習等、社会科など他教科とも関連的な指導を図っていく。 ・評価計画を基に、個に応じた具体的な支援の充実を図る。

【生活】

<p>■児童の状況</p>	<p>(1、2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に慣れてくる一方で、集団生活や安全な生活のためのルールを忘れがちになってきている児童がいる。 ・地域的に、動物や植物などの自然に関わる機会が少なく、怖がったり、関心をもてなかったりする児童がいる。 ・身の回りの自然を利用したり、身近にあるものを使って遊びを工夫したりする経験が少ない児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導、特別活動、道徳との関連を図り、日常的な指導を図っていく必要がある。 ・実物に出会う機会をできるだけ多くもたせる必要がある。 ・身近な自然や、物を使って工夫した遊びができるような助言をしていく必要がある。 ・自分と自分を取り巻く環境の関わりを意図的に気付かせていくように指導する必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月や週の生活目標、話し合い活動での議題、道徳などでもその都度、児童が自分の生活を振り返る場面を意図的・計画的に設定する。 ・友達同士で飼っている動植物や、学校の動植物を観察したりするなどの機会を増やす。 ・遠足等の校外活動も自然にふれる機会として位置付ける。 ・地域や家族で自然を利用しての遊びや伝統的な遊びを教えてください方をお願いし、遊びの幅を広げていく。 ・緑のカーテンや実のなる木など身近な環境を教材化し、気付きを深めていく。 ・「ぼくの木」、「わたしの木」を決め、継続的に観察する機会をもち、自然への興味・関心をさらに高めるようにする。 ・学校のことや遊び方の説明、インタビューの仕方など話形をそろえた指導を行う。

【音楽】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝会時や行事での鼓笛活動では各自が自覚をもち、本校の伝統を受けついでいる。 ・歌唱では、自分の思いを精いっぱい歌声に表して表現することを苦手とする児童がいる。 <p>(3、4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動に関心をもち、意欲的に活動する児童が多い。 ・楽器合奏、部分二部合唱の活動を通して音の重なりを味わうことのできる活動が好きな児童が多い。 ・様々な楽器に興味をもち、クラスで協力して合奏を楽しむことができる。 <p>(1、2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌うことに関して、興味・関心の高い児童と低い児童が見られる。 ・文部省唱歌や童謡など、自然に口ずさめると思える歌を知らない児童が多くなっている。 ・歌うことは好きだが、「きれいな歌声で」ということを意識して歌うのは難しい児童がいる。 ・旋律を表現するための楽器として鍵盤ハーモニカを扱っているが、鍵盤楽器の経験がある児童とない児童との差が大きい。
---------------	--

<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに知っている歌は元気よく楽しんで歌えるが、歌詞や旋律を知らない曲に関しても、楽しんで歌えるような工夫が必要である。 ・楽譜や歌詞の読みや繰り返しの記号の理解等がまだ難しいので、範唱や伴奏を聴いて曲の全体像を捉え、旋律を覚え、表現の工夫につなげていく必要がある。 ・鍵盤楽器の経験の少ない児童へは個別指導を行っていく必要がある。 ・合奏、合唱の美しさ、楽しさが持続できるよう分かりやすい助言、細かい指導を心がけていく必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p> <p>※音楽の授業での言語活動は？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や帰りの時間を利用して、範唱や伴奏を流し、聴いたり、歌ったりする機会を意図的・計画的に設定する。 ・リズム遊びやふし遊び、身体表現などを取り入れ、基礎的な表現の能力を高めるとともに、音楽表現の楽しさを味わわせる。 ・鍵盤ハーモニカやリズム楽器などでは相互に教え合って演奏をすることを通して、友達と音を合わせる楽しさを味わわせる。 ・全員の様子を把握するために、グループ活動を取り入れたりフレーズごとに交互唱奏を行ったりして、技術と理解度を確認していく。 ・グループ学習を多く取り入れて、少人数での音の重なり的美しさを感じ取らせる。 ・一人一人に学習のめあてを明確にもたせ、その解決に向けての練習時間をできるだけ多く確保できるようにする。 ・楽しく学習活動が進められる現状を維持しながら、楽譜を読む力、音の高低を読み取れる力を身に付けられるように新しい教材に入った時点で数分間、楽譜を読み取る時間を確保していく。 ・歌唱に対して苦手な児童には、個に応じた歌唱指導を行い苦手意識を解消していく。 ・鑑賞の授業では、音楽を聴いて感じ取ったことを言葉で表す活動を繰り返して行っていく。発表し合う機会もできるだけ多く設定し、学び合うことができるようにする。 ・今後も音楽朝会を計画的に継続して行い、全校で歌う楽しさを味わわ

	せる。
--	-----

【図画工作】

■児童の状況	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に造形活動の好きな児童は多いが、ときどき意欲の見られない児童もいる。 ・作品に対する工夫や意欲について個人差が大きく、力のある児童も多数いる。 ・基本的な道具、材料の使い方の能力の個人差が大きい。 <p>(3、4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に造形活動に関心をもち、図工を好きだという児童が多く見られ意欲的に活動している。 ・個人差が少し見られてきたが、作品の完成に向け、よりよいものを工夫しようとする意欲が見られる。 <p>(1、2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図工は楽しい」という児童が多く、工作材料もきちんと準備できる児童が多い。しかし、「絵は苦手」「ハサミが上手に使えない」と思いこんでいる児童もいる。 ・造形活動は、どの児童も楽しんで取り組むが、発想の豊かさには個人差がある。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・導入や題材など、児童に合った工夫を行い、楽しい授業になるように心がけていく必要がある。 ・題材の課題を分かりやすく示し、見通しをもって活動できるよう導入時に心がけていく必要がある。 ・表したいこと・つくりたいものを、自分の表現方法でつくりだす喜びを味わえる授業の展開が必要である。 ・自分らしい造形活動を行うために、児童が試行錯誤を繰り返し行える活動が必要である。 ・個性を生かした、多様で創造的な表現活動を促し、児童が自分に適した表現方法を選ぶことができるような授業の展開が必要である。 ・基本的な技能を身に付けさせるために、繰り返し指導を行う必要がある。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や材料の準備をし、児童が自分の望む表現方法で活動できるよう、事前の働きかけを十分に行っていく。 ・基本的な道具や材料の使い方を年間の活動の中で数多く経験するような計画を立てる。 ・児童が自分の思いをより明確に表現できるよう、さまざまな表現方法を体験させ、多様な素材や道具に触れさせる。 ・興味をもって楽しく活動できるよう児童の実態に合わせた題材や導入

	<p>の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の課題を児童がしっかり把握できるよう、導入時の話し方をはじめ、導入方法の工夫を行う。 ・児童に対して活動を認め励ます言葉かけを行う。 ・児童自身が楽しんだり、考えたりしながら思いのままに取り組めるよう、個に応じた支援をしていく。 ・個々の児童の表現を認めるとともに、自分の表現を自己評価できる機会を設定する。 ・基本的な指導については、分かりやすく図示や板書を行い、繰り返し指導を行う。 ・休み時間や放課後等の時間を活用して、個に応じた指導支援を行う。 ・児童の興味・関心、感性を核として、主体的に感じたり味わったりできる内容、すなわち自他の作品・美術品・身近な日常の造形品・実際に製作する過程などを含め、鑑賞する児童の視点から幅広くとらえた鑑賞活動を行う。<u>さらに、作品を見て感じ取ったことを伝え合う活動を行う。</u>
--	---

【家庭】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、家庭科学習への関心の高い児童が多く、特に実技を伴う単元では、意欲をもって取り組んでいる。 ・裁縫など技能面での個人差が大きく、個別の支援が必要になる児童もいる。 ・新しい学習への意欲は高いが、学習したことを基に自分なりに工夫したり、実生活の中で生かしたりすることへの発展はまだ十分でない児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容によっては、少人数での学習を積極的に取り入れるなど学習形態を工夫することで、個に応じた指導をしていく必要がある。 ・技能面での個人差に対応できるよう、授業形態や教材教具の提示の仕方を工夫するとともに、教材教具の開発をしていく必要がある。 ・個人の好みや技能の違いにかかわらず、作る楽しさや活動するよろこびを実感できる教材を開発していく必要がある。 ・学習した内容を実生活の中で生かしていけるような課題設定、支援を考えて

	<p>いく必要がある。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容によって、一斉授業、グループ学習、個人学習など、様々な学習形態を取り入れた授業を行う。特に、技能を高める学習では、小グループごとに指導や支援することで確実な習得へとつなげる。 ・児童相互が教え合い、学び合うような時間を設定することで理解を深めていく。 ・視聴覚機器等を活用したり、絵図等を掲示したりして、言葉だけでなく視覚からも作業の手順を確認し、児童がイメージをもって作業を進められるようにする。 ・個人の好みや技能に合わせて、教材が選択できるような課題を設定する。 ・保護者との連絡を密にし、また長期休業中の課題として家事を取り上げるなどして、学習したことを家庭で生かせる場面を設定していく。

【体育】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が体育の学習を楽しみにしていて、意欲的に活動に取り組む児童の姿が見られる。 ・学び合いの意識が高くなりつつあるが、グループ内で互いの運動を見合い教え合うことについては十分とは言えない。 ・運動技能を向上させていくためにどのように練習方法を工夫していけばよいか理解できず、技能の向上が進まない児童がいる。 ・ボール運動を好む児童が多いが、課題意識をもって、活動をすすめていくことのできる児童は少ない。 ・技能面での個人差は大きい。 <p>(3、4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことは好きで、興味をもって運動しようとする。 ・得意な運動は積極的に取り組もうとするが、苦手な運動には最初から
---------------	---

	<p>あきらめてしまう児童がいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団行動のきまりが徹底しないことがある。 <p>(1、2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動をしようとする姿勢が見られる。 ・ボールゲームや鬼遊びを好む児童が多く、それぞれの能力に応じて活動することができる。 ・器械・器具を使つての運動遊びでは、技術面において個人差が大きい。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育が好き」という児童の思いを大切に、自分のもっている力を少しでも高められるような授業の展開が必要である。 ・指導時間を十分に確保するために、より効率的な場の設定を行う必要がある。 ・学習のめあてをより一層確実なものとするために、自己評価活動の充実、友達との学び合い、学習資料の活用を図った授業を行う必要がある。 ・運動に必要な基礎感覚がどの児童にも身に付くよう、基礎・基本の確実な定着をめざした授業を行う必要がある。 ・体力の必要性を学び取らせ、運動に意欲的に取り組む児童を育てる必要がある。 ・運動の精度が上がっていく、できるようになっていく感覚を味わわせる場面をつくる必要がある。 ・個々の児童の到達度に合った運動ができるような場の設定が不十分である。

■授業改善に

向けての具体的な方策

- ・運動量の確保を心がけ、体育の授業を通しての体力の保持増進を図る。
そのためにも、集合整列等にかかる時間を極力短くする。
- ・運動の楽しさが十分に味わえるような工夫をする。個々の能力に応じて、今できる運動からさらに難しいことに挑戦してくことのできるような授業を行う。
- ・授業の開始前に、集団行動の約束事を説明し、それらを守れるよう指導を行う。
- ・学び合い、かかわり合い、教え合いが活発に行われるよう、個々の児童が学習カードを十分に活用できるよう指導する。
- ・技能差を吸収できるような競争方法を開発するなど、集団達成的な楽しさを重視した授業を行う。
- ・各種運動領域に応じた学習カード等を活用して自己評価ができるようにし、より一層の問題解決的な学習が定着するようにする。また、学習形態を工夫し友達同士で学び合う場面を設定する。
- ・体力を高める運動を通して、体力の必要性、高め方についての理解を進める。
- ・児童が行う活動がよく分かるように、事前に説明し、きまりを確実に理解させる。そのため、学習カードを活用したり、絵や図を活用したりして、学習の見通しをもたせる。
- ・運動の場の準備や運動を進めていく際の流れなどをある程度システム化し、児童がすばやく理解して動けるようなしくみをつくる。
- ・できるだけ様々な児童に対応できる運動の場を用意する。自分の力に合った目標から挑戦させ、「できた！」という感覚を味わわせるようにする。
- ・チーム対抗のミニゲームなどを取り入れ、学び合い互いに協力し合って、メンバー全員で高まっていく感覚を味わわせる。
- ・体育の授業で覚えた運動遊びを休み時間や放課後の遊びに取り入れられるよう助言し、体力の向上を図る。

【外国語活動】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを図る活動には意欲をもって取り組んでいる。 ・Practice (表現方法の練習) では、大きな声を出すことが苦手な児童がいる。 ・Listen (聞くこと) や、Activity (ゲーム) では、意欲的に活動できる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に対応できるよう、授業形態や教材教具の提示の仕方を工夫するとともに、教材教具の開発をしていく必要がある。 ・ALT とのコミュニケーションを通して、異文化理解を進める必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習、グループ学習、ペア学習など、様々な学習形態を取り入れた授業を行う。特に、小グループごとの活動を取り入れ、外国語活動をより意欲的に行えるようにする。 ・視聴覚機器等を活用したり、絵図等を掲示したりして、児童がイメージをもって活動できるようにする。 ・英語ノートの効果的な活用を図る。

【総合的な学習の時間】

<p>■児童の状況</p>	<p>(5、6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を明確にもつことができる。 ・課題に対し進んで資料を収集し、取捨選択してまとめることには課題のある児童がいる。 ・調べたことを基に、発表する力に個人差がある。 <p>(3、4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科等で学習したことの発展として興味をもって意欲的に活動することができる。 ・グループごとの発表会では、はっきりとした声で調べたことを発表することができる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文書資料や各施設が発行しているパンフレットなど、課題の解決に必要な資料を取捨選択する力を身に付ける必要がある。 ・インターネットによる調べ学習は、情報を絞り込む必要がある。 ・自分の調べたことを効果的に発表できる授業を工夫する必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる調べ学習が円滑に行えるよう、児童用教育ソフトの活用を図る。 ・少人数やグループでの発表など、お互いに認め合えるような授業形態を工夫する。 ・新聞や、パソコンソフトによる発表など、発表方法を選択できるようにし、自分の目的に合った発表ができるようにする。